

カリフォルニアの風

第5号 令和7年8月20日 発行
サンフランシスコ日本語補習校
校長 相澤 順

夏休み終了、補習校再開、よろしくお願いいたします

長い夏休みを終え、本校での学校生活が再開します。2ヶ月の間に、子どもたちは旅行や一時帰国、体験入学やサマーキャンプ、趣味や習い事、学習（宿題）への取組などで、それぞれ充実した夏休みを過ごしたことと思います。それらの経験を通して、子どもたちはきっと一回りも二回りも成長していることでしょう。学校で会えることがとても楽しみです。

夏休み明けは、子どもたちの編入学が多くあります。今回、4校合わせて50名を超える仲間が新しく加わりました。教職員間で、夏休みを終えた子どもたち、新たに迎えた子どもたちの様子を丁寧に見守りながら、指導や支援に当たってまいります。

保護者の皆様には再びお子様の送迎等でご協力をいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

6月16日～21日の集中学習期間（特別プログラムの授業）を終えて

昨年度より一週間となった集中学習期間。今年度も4校それぞれ工夫を凝らした「特別プログラム」の授業を織り交ぜながら実施いたしました。子どもたちが、毎日友だちと会える喜びや、シリーズでの学習や活動に理解の深まりを感じて、楽しそうに過ごしている様子をたくさん見ることができました。

以下、各校の主幹より、集中学習期間（特別プログラム）の総括コメントです。

毎日会える集中学習は、児童により影響を及ぼしていると感じます。初日は「行きたくない」と泣いた幼児、児童が数名いましたが、翌日には一人もいませんでした。帰るときに、「また明日！」と言える幸せ。毎日会える新鮮さ。これは児童だけではなく、児童と教員、私たち教員同士も同じです。この幸せなひと時を、今年も味わえたことに感謝します。

さて、集中学習期間には特別プログラムがあります。3年生以上は「理科」を集中して学びます。モーターで作る自動車作り、ペットボトルロケット、電磁石作り、人体模型作りなどは、毎年大人気です。幼稚部、1・2年生はそれぞれ、歌（含：リトミック）、大きなかぶ、スイミーの音読発表会がありました。参観してくださった保護者の皆様、大変ありがとうございました。のびのびと歌ったり、音読したりしている姿は微笑ましく、大きな成長が感じられました。また教員も、特別プログラムに手ごたえを感じ、すでに来年を見据えた計画を立て始めています。あっという間に終わってしまった「集中学習」。来年も素晴らしいものになるに違いありません。 **（幼小部サンフランシスコ校 主幹より）**

2年目に入る特別プログラムでは、各学年の児童の実態に応じた学習内容が計画・実施されました。授業で学んだことを実体験として深める活動や、単元の内容を踏まえて制作物を自力で作成したり、グループで協力して取り組んだりするなど、児童が自ら創意工夫を凝らす機会が多く設けられました。

また、異学年間での交流を通してお互いの成長を感じ合ったり、クラスを超えて発表し合うことで、学習の成果を共有する時間を持つこともできました。

最終日には、全学年から2名ずつの代表児童が自分たちの学びを発表し、達成感を共有しました。

また、特別プログラムを通して「集中学習が楽しい。」という児童の声も多く寄せられ、担任からもたくさん子どもたちの頑張っていた姿の報告がありました。 **（幼小部サンノゼ校 主幹より）**



【「おおきなかぶ」の音読発表
(1年国語)：幼小SF】



【息を吐いて二酸化炭素収集中
(6年理科)：幼小SF】



【納豆の作り方に興味津々…
(3年理科)：幼小SJ】



【最終日、全校集会。全員で学び
の振り返り中：幼小SJ】

中高部は、各教科で集中学習ならではの授業を展開しました。例えば、数学科の屋外実験や、国語科では詩の鑑賞・作成や、四文字熟語のカルタ作りなどを通して、普段なかなか時間がかけられない作業や活動を行いました。

また、昨年度に引き続き第2回目となるビブリオバトルを開催。自分の推し本を紹介し合い、チャンプ本（参加者がもっとも読みたくなった本）を選出しました。これにより読書の推奨だけでなく、言語活動の幅を広げることができました。

今年度の集中学習は、中高部と幼小部が合同の校舎で行われ、普段できない児童・生徒たちの合同イベントで交流会が持てたことも特筆できると思います。

昨年度より集中学習の期間は1週間となりましたが、凝縮されたクラス運営や交流の機会として有意義な時間となっています。
(中高部サンフランシスコ校 主幹より)

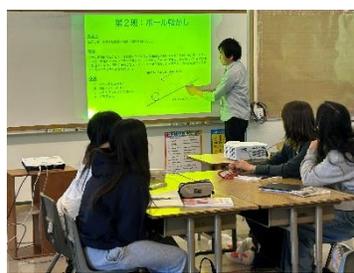
今年度の特別プログラムでは、年間指導計画には含まれない教材を中心に各教科の興味関心を引き出す授業に取り組みました。

社会科では、地図帳を手にクイズを解いてクロスワードを完成させ、答えを導き出すという授業をしました。国語科では、詩、俳句、短歌や慣用句を創作し、数学科でも身の回りの実生活に結び付いた題材をテーマにして数学に関することを学んでいました。

どのクラスも普段とは違った授業内容に生徒は改めて教科の面白さを知りました。また、スポーツ大会の午後は、全校生徒が卒業生のお話を聞いたり質問したりする交流会を持ちました。昨年度の卒業生から、平成11年の卒業生たちが集まってくれました。先輩たちの話を聞いて、生徒からは、「補習校をやめたいと思っていたが、補習校はこれからの私たちにとって大事なことが良く分かった」「先輩たちから日本語を学ぶ大切さやその理由、現地校との両立や勉強の仕方などを、分かりやすくお話していただいた」「補習校のことを続ける気持ちがはっきりした」などという声が多く聞かれました。子どもたちにとって、これからの自分たちの進路を具体的にイメージできる機会になったのではないかと思います。
(中高部サンノゼ校 主幹より)



【お薦めの本を紹介中です
ビブリオバトル：中高SF】



【屋外実験の前にやり方を聞いて
います（高2数学）：中高SF】



【地図帳を活用して、トレジャー
ハント！（中2社会）：中高SJ】



【卒業生19人が、補習校時代を振り返り、熱く語ってくれました
(キャリア学習)：中高SJ】